

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「十字架の死と復活のいのち」

～ 果てしない暗闇にあって ～

管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一

「神は、主を復活させ、また、その力によって私たちをも復活させてくださいます。」(Iコリント6:14)

復活前主日の日に、アハリー・アラブ病院がイスラエル軍の空爆によってその一部が破壊されました。中東聖公会エルサレム教区が運営する病院で、多くの教会関係者からも支援を受け、ガザ市内で多くの負傷者を受け入れていた病院です。また、3月末に起こったミャンマーでの大地震では各地で甚大な被害を受け、祈りと支援が呼びかけられています。戦火や災害によって今も困難のうちにある方々を覚えて祈り続けます。

以前ある方から、テロの撲滅というプロパガンダがあるけれども、私たちがテロリストと呼んでいる人たちが皆が兵士や革命家などではなく、爆撃などによって愛する家族が目の前で殺された一般市民が、その怒りとやるせなさから爆弾を抱えて相手国の施設へ身を投じていたということを知られました。資源や利権が欲しい為に、大量破壊兵器を所持しているから、テロ組織が暗躍しているからなどと、自分たちの都合のよい言い分によって、武力攻撃や圧力を加えることがゆるさされてはならないと思うのです。自国中心、自己中心の思いが渦巻く世界の中で、主の平和のために祈り、行動する使命が私たちにはあるのではないのでしょうか。

今年、戦後80年を迎える私たちは、復活日付で出された主教会メッセージにあるように、1996年の総会決議である「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」を再認識したいと思います。私たちが掲げる十字架は、イエスさまの慈しみと愛による復活の希望です。死刑の道具が人を生かすいのちの象徴となるという逆説の勝利のしるしであることを覚えます。

復活節を歩む私たちは、一人一人の命が本当に大事にされ、愛されるべきものであること、しんどいことや悲しいことで沈んでしまいそうになる私たちに、希望を与え、もう一度いきいきとした歩みを起こすために、イエスさまは十字架にかかれ、復活の希望

口会議・プログラム等予定

(2025年4月25日以降・前回未掲載分)

- 4月
25日(金) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議(Web)
- 5月
1日(木) ナザレ委員会[ナザレの家]
4日(日) ～5日(月) CCEA 青年大会準備会[名古屋学生青年センター+Web]
8日(木) セーフチャーチ・タスクチーム会議[管区事務所]
13日(火) 常議員会[管区事務所]
16日(金) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会(Web)
20日(火) 正義と平和・ジェンダープロジェクト会議(Web)
21日(水) 文書保管委員会[管区事務所]
21日(水) ～23日(金) 新任人権研修会[狭山・川越]
31日(土) いのちをみつめる祈りの集い(Web)
- 6月
2日(月) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議[沖縄教区センター+Web]
10日(火) 聖公会神学院参与会[ナザレの家]
10日(火) ～12日(木) 主教会[ナザレの家]
14日(土) 原発のない世界を求める講演会[聖アンデレ+Web]
20日(金) ～22日(日) 沖縄週間/沖縄の旅[沖縄]
23日(月) 主事会議[管区事務所]

<関係諸団体会議・他>

- 5月12日(月) 部キ連総会[大阪KCC会館+Web]
6月17日(火) ～18日(水) 日本聖公会婦人会総会[横浜聖アンデレ教会]
27日(金) USPG セーフチャーチに関する対話(Web)

を与えてくださっていることを覚え続けます。そして、どんな暗闇にも希望の光があることを信じて祈り、復活の喜びを届ける働き人であり続けたいと願います。

Happy Easter

公 示

救主降生 2025年4月17日
日本聖公会首座主教
主教 ダビデ 上原 榮正®

神のおゆるしがあれば、
主教被選者 司祭 マルコ 柴本 孝夫 師の主教按手式および
日本聖公会九州教区主教就任式を下記のとおり執行いたします。
主にあるみなさま、ことに日本聖公会に属する信徒・聖職の代
禱を求めます。

記

日 時 : 2025年7月5日(土) 10:30 ~

説教者 : 主教 ガブリエル 五十嵐 正司(日本聖公会主教)

場 所 : 日本聖公会九州教区主教座聖堂(福岡聖パウロ教会)
〒810-0045 福岡市中央区草香江 2-9-22

※祭色は赤を用います。

以上

□各教区

東京

- ・ 聖職按手式 2025年5月17日(土・教区成立記念日) 聖オルバン教会 司式: 主教 フランシスコ・ザビエル高橋宏幸 説教: 司祭 マーガレット・ミエル(オーストラリア聖公会 キャンベラ・オールバン教区) 執事志願者: 聖職候補生 岡 フランセス

神戸

- ・ 神戸教区第95(臨時)教区会 2025年3月29日(土) 教区主教選挙実施: 司祭バジル八代智師(神戸教区) が当選。

†逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 ビンセント原 寛師(九州・退) 2025年4月10(木) 逝去 (87歳)



バルナバ小林 聡 師 日本聖公会 大阪教区主教に就任



主教 バルナバ 小林 聡 師

2025年4月12日(大斎節第5主日の週の土曜日)日本聖公会大阪教区 主教座聖堂(川口基督教会)において、バルナバ小林 聡 師の教区主教按手式および教区主教就任式が執り行なわれました。

説教者：主教 長谷川清純師

(東北教区主教・京都教区管理主教)



写真提供：大阪教区

《人事》

東京

- 執事 クララ佐久間恵子 2025年3月31日付 下町教会グループでの協働ならびに聖アンデレ教会主日勤務の任を解く。
- 聖職候補生 ヤコブ高瀬祐二 2025年3月18日付 聖職候補生取消願を受理し、日本聖公会聖職候補生の認可を取り消す。
滝野川学園聖三一礼拝堂チャプレンの任を解く。

横浜

- 執事 セバスチャン染谷孝章 2025年3月31日付 茂原昇天教会牧師補の任を解く。
2025年4月1日付 松戸聖パウロ教会牧師補に任命する。

京都

- <信徒奉事者認可> 2025年4月1日付(任期1年)
 (富山聖マリア教会) ピリゴ廣瀬康夫
 (上野聖ヨハネ教会) ルカ木村直史
 (岸和田復活教会) チャニング熊取谷志郎、ヒルダ岸 雅子、フランシス大森俊治
- <信徒奉事者認可および分餐許可> 2025年4月1日付(任期1年)
 (奈良基督教会) ダビデ松本 誠
 (聖アグネス教会) サムソン眞継 穰、サムエル藤村大輔、R. ジョージ プッセル

大阪

司祭 ウイルソン ウォーレン (退)

2025年5月1日付 司祭ヨハネ古澤秀利のもと大阪城南キリスト教会において嘱託司祭として勤務(定住)することを委嘱する。(任期1年)

プール学院からの要請を受け、チャプレン・司祭バルナバ永野拓也のもとプール学院アシスタント・チャプレンとして週1日勤務することを許可する。(任期1年)

《教会・施設》

初島聖十字教会・初島幼稚園(京都)

2025年4月1日付 番地表記変更

旧: 〒649-0306 有田市初島町浜 1769-1

新: 〒649-0306 有田市初島町浜 1769-2

電話番号FAX番号は変更なし

特集・神学校から**2025年度 聖公会神学院の神学教育について****— 学びと実践の輪を広げる諸プログラム —**

聖公会神学院 校長 主教 ルカ 武藤 謙一
前校長 司祭 アンデレ 中村 邦介

いつも聖公会神学院のためお祈りとご支援を頂き、心より感謝申し上げます。

聖公会神学院は、新たな体制として武藤謙一主教が校長に就任し、また新たに事務長として西原美香子氏が着任しました。

ご周知のとおり、本学院は基本的に本科(3年コース)を中心にして教育課程を展開していますが、神学生の激減という事態に直面して、2023年度から新たにオンラインによる「特任聖職特別コース」また「信徒の奉仕・召命コース」を開設しています。これらは、これまで本校で共同生活を基にした本科コースにおいて学ぶことが様々な事情によって困難である人々に対して、それぞれの生活や学習環境において神学教育に参加できるように、より幅広く柔軟にその機会を提供

することにあります。同時に本校はこれまで以上に意欲のある教役者に対して可能な限りリカレント・継続教育による学びの機会を提供したいと考えています。今日の多様にまた複雑に変動する社会の中で教会はその存在事由を問われつつ、新たな課題に直面しています。このような中で教会はこれまで受け継がれてきた伝統をただ反復するだけではなく、新たに捉え直して活性化し、新たな使命と課題に取り組む「創造的信徒」が求められています。2018年度から開始された現役教役者のための「継続教育・研究休暇コース」は、一定期間本学院に滞在して教育と研究に専念できるように、年間を通して希望者にその門戸を開いています。また22年度からは管区や教区で行なわれる様々な教育・研修を積極

的に支援するために「研修・教育支援プロジェクト」を設定しています。今年度も6月末と12月末を申請の締め切りとしていますので、ぜひ応募してください。

22年ランベス会議「神の世界のための神の教会—ともに歩み、聴き、証する」を受け23年に掲げられた「ランベス・コール」において、「弟子であること、弟子となること」が全聖公会的に神学教育のテーマとなりました。この意味で神学教育が全ての信徒(聖職と信徒)がこの世を旅する者として、信仰から信仰へと変えられていくプロセスのためにあることを心に留めたいと思います。

I. 25年度の在學生(本科及びオンライン受講者)は以下の通りです。

本科三年次:1名(中部教区)

本科一年次:2名(北海道教区、東京教区)

オンライン「信徒の奉仕・召命コース」:4名

(東京教区、東北教区、中部教区)

オンライン「特任聖職コース」:1名(東京教区)

聴講生:1名(マレーシア聖公会)

また今年度も引き続き継続して受講(オンライン)される方々

特任聖職特別コース:3名

(沖縄教区、東京教区、東北教区)

信徒の奉仕・召命コース:5名

(横浜教区、東京教区、九州教区)

II. 今年度の主な行事及びプログラムとしては、以下の項目を実施する予定です。

(1) 「説教セミナー」について

昨年3月12日(火)～13日(水)と9月17日(火)～20(金)の2回にわたって、「説教セミナー」を開催しました。セミナーは平野克己先生(日本基督教団代田教会牧師)を講師として、これまでの説教者から一方的に伝達される説教から会衆である聴衆において出来事となる説教への転換について学びました。特に70年代から米国で始まった「説教運動ニュー・ホミレティックス」

の流れとドイツの説教運動と共に日本の説教塾(運動)を展開してきた加藤常昭牧師を紹介されました。第2回目は実際にある聖書テキストから共に黙想と釈義というプロセスを通して説教作成に至るワークショップを行ないました。このような参加者との共同作業の経験から最後は説教作成に取り組み、聴いた参加者に何が起こったかのフィードバックが為されます。

今年も「説教セミナー(第3回)」として開催し、参加者を募集します。これまで参加できなかった教役者には、ぜひ「説教セミナー」への参加を期待します。とかく独りよがりになりがちな説教の務めが、恵み豊かな「出来事となる説教」に導かれる確かな指針を発見することでしょう。今年度は本校で7月15日(火)～17日(木)「説教セミナー(第3回)」を開催します。これまで参加できなかった教役者は、ぜひご参加ください。

(2) 聖公会神学校(アジア・太平洋地域)

校長(Anglican Seminary Deans Network Asia-Pacific (ASDN)) 会議

2023年11月に本校ではじめて開催されたASDN会議は、神学教育における相互の連携・協力を目的にしています。オセアニア、フィリピンを含む広範囲なネットワークです。24年度のプログラムとして、韓国から聖公会大学(神学校)のサイモン・ロー校長がウィリアムス神学館を1月に訪問して、公開講座や講義を行ないました。また本校では川島創士神学生が、立教大学「サービス・ラーニング」のプログラムに参加した後、フィリピンの聖アンデレ神学校に滞在して交流の時をもちました。今年度は山野貴彦教員が、韓国の聖公会大学を訪問し、最近の神学校及び韓国聖公会の取り組みを研修する予定です。これらすべての活動の資金は米国聖公会のニューヨークのトリニティ教会の「Leadership Development Initiative Grant」からの支援によります。

またASDN(Asia-Pacific)は2025年3月2日(日)～6日(木)にニュージーランドの聖ヨハネ神学校(オークランド)で会合(第3回)を

開催しました。ほぼ同時期にUSPG (The United Society Partners in Gospel) 主催の神学教育に関する協議会 (CTEAC) が3月11日(火)～15日(土)にフィリピン(マニラ)で開催されました。残念ながらいずれも日程の調整がつかず、参加できませんでした。次回の第4回会合 (Meeting in Person) は2027年に場所は未定ですが、開催されることになりました。

(3) 「非暴力な対話のためのワークショップ」

3月6日(木)～8日(土)まで初めて「NVCワークショップ」を本校で開催しました。二人の講師の指導による「観察・感情・ニーズ・リクエスト」という基本要素に基づき、からだを通して学ぶという研修でした。私たちが習慣的に身に着けた「思考」によってではなく、からだの奥にある感情を焦点にして、「新しいコミュニケーション」を試みます。今年度も26年3月12(木)～14日(土)に実施します。特にハラスメント防止とセーフチャーチの趣旨を各教区・教会に推進していく方法として、ぜひ様々な教区・教会からの参加者と共に、学びと実践の輪を広げていきたいと願っています。

(4) オンライン受講生の「スクーリング」

特任聖職特別コース及び信徒の奉仕・召命コースの受講生が、2月に本校に集合して2泊3日の予定で礼拝と共同生活を共にし、面接相談の在り方についての特別講義や聖書の言語と教会の現状と奉仕職について小講義を行ないました。また個人面談を通して各受講生の学びの進捗状況や要望を聴き、また各自の学びについてフィードバックしています。普段はオンラインでのやり取りとりですから、直接にお会いして交流を深めることは、信頼関係の構築の上で大切な意味をもつことを再確認しています。

今年度も2026年2月21日(土)～2月23日(月)に日程を設定しています。

(5) 礼拝音楽プログラム

年間を通じて、7月21(月)「海の日」と2026年1月12日(月)に「唱詠晩禱」(一般公開)を予定しています。また原則として毎週月曜日の夕方に神学生向けに教会の礼拝において伝統的に歌われてきた聖歌やカンティクルなどを学びつつ、有名なジョン・ラッター氏などの新しい聖歌などにも触れ、礼拝と音楽の密接な関係などを学びます。



特集・神学校から

2025年度 ウィリアムス神学館の神学教育について

— 観想的で実践的な奉仕者へ —

ウィリアムス神学館 館長 司祭 ヨハネ 黒田 裕

いつもウィリアムス神学館をおぼえご加禱・ご支援をいただき心から感謝申し上げます。阪神淡路大震災および地下鉄サリン事件から30年、そして戦後80年を迎えた2025年。大阪・関西万博も開幕しましたが、前回万博の「太陽の塔」を

通して岡本太郎氏が喝破した「人類は進歩なんかしていない」というひとつの明察に思いを寄せる今日この頃です。国内においては能登半島地震およびその後の豪雨被害、国外においては、ウクライナおよびガザ、そして現下の中東情勢の

なかで犠牲になられた方々の魂の平安と、いまを必死に生きておられる方々に主の癒しとお支えがありますように、さらに、強権的軍事国家が最悪のかたちで手を組んで国際法秩序を崩壊させることなく、この地上が主の平和の反映するところとなるよう、心から願い、祈ります。そのような内外の情勢のなか、ランベスコールや日本聖公会の宣教協議会からの提言を踏まえつつ、教会がどのような宣教ヴィジョンを描き、主の弟子として奉仕を実践していけるのか、神学教育の重要性をひしひしと感じます。

(1) 新年度を迎えて

今年度は残念ながら入学者がなく、本科生1名となりましたが、8名もの聴講生が与えられました。本科生にとっては共に学ぶ仲間が増えることにもなり大きな喜びです。一方で、毎年のようにメンバーの入れ替わる神学館ですが、1名の卒業生を送り出したことに加え、2022年の秋からご奉仕くださった津田華枝主事が昨年度末で退任されました。これまでのお働きに感謝しつつ、新天地でのお働きに主の豊かな祝福とお導きがありますよう祈ります。専任もしくは専任に近い主事と非常勤の主事補がいる、という体制がとれなくなって久しい神学館の試行錯誤は今も続いています。

2014年から始まった「今さら聞けない!!キリスト教」講座ですが、昨年度に本館教授・越川弘英同志社大名誉教授を講師に行なわれた「礼拝と宣教」編を最後に終了することとなりました。10年以上にわたる取り組みのなかで本講座に参加し、また楽しみにして下さった方々に心から感謝申し上げます。とはいえ、この講座を基にした神学館叢書があと3巻分残っており今後順次刊行されていく予定です。さらに過去の講座も随時視聴可能です。今後もこの教育資源がひろく活用されることを願っておりますので、どうぞご利用ください。詳しくはウィリアムス神学館公式HP「キリスト教講座」のページ (<https://www.williams-theol.com/>) をご覧いただき、メール

(info@williams-theol.com) かファックス (075-431-5445) にてご連絡ください。各講座の簡単な説明と視聴方法をお知らせいたします。

(2) 観想的で実践的な奉仕者の養成に向けて

私自身のヴァージニア神学校 (VTS) D.Min (ドクター・オブ・ミニストリー) コースでの学びですが、3月末に博士論文の審査に通り、5年間の学びを終えることとなりました。学位授与式は5月初旬に予定されています。この間、管区・教区からの支援をはじめ、神学館の学生・教職員や同僚の友、友人、家族からの励ましや祈りによって支えられてきました。この紙面をお借りしてみなさまに心から感謝の意を表します。

論題は「連帯のためのソリチュードの霊性の展開—日本聖公会における神学教育のために」で、日本聖公会の初期宣教の時代から今に至るまで、その宣教的展開に大きな影響を与えてきた「自給・自治」の課題を霊性の文脈で捉え、日本における宣教を活性化させるために必要と思われる神学教育の展望と方途を論じたものです。これまで本欄でも神学館が養成しようとする人材について「観想的な奉仕者」という表現を用いてきましたが、論文執筆の最終段階で「実践的な」を加え深化発展させることができました。指導教授の勧めもあり近い将来この論文の日本語版を出版したいと考えています。かなり具体的な提案も含まれているので、この所論をいわばたたき台として将来を模索しながら神学教育にとどまらない次元で様々な信徒・教役者と共に協働できることを願っています。

そうした取り組みの軸となるのが6年目を迎える「霊性の形成と変容」クラスです。これは2020年の開講以来、継続的に深化・発展させてきたプログラムなのですが、歴史的に形成されてきた霊的实践に関する先達の知恵に学び、それに基づいた祈りと黙想、分かち合いを通して、神との関係において自己の信仰、自分自身や自己と他者との関係、自己と社会・世界を省察し、神学生が観想的で実践的な奉仕者となるために、

神学諸科の学びと礼拝および共同生活の深い次元での総合を目指しています。今年度はイエズス会およびベネディクト会の霊性、日本の禅的霊性を学びかつ実践することを通して、ボンヘッファーの『共に生きる生活』の背後にある修道的霊性を意識化しつつ、文脈的に聖公会祈禱書の霊性にふれてゆく機会にしたいと考えています。すでに他教派の教職者の参加も得られ、よりエキュメニカルな展開を見通せることにも感謝です。

また、時期は前後しますが、USPG (United Society Partners in the Gospel) のイニシアティブのもとここ数年実施されてきたアジアの神学校間の協働を促進するATAP (Asia Theological Accompaniment Programme) が3月13～16日、フィリピンのアンデレ神学校 (SATS) を会場に (※過去2回はスリランカで開催) 行なわれたのですが、館長の代理として本館主事の古本みさ司祭を派遣できたことは大きな収穫でした。テーマは「脱植民地化のアジアにおけるディサイプルスシップ (※キリストの弟子であること、あるいは弟子性を問うことを意味する) : アジアのコンテクストから『宣教の5指標』を探索する」で、参加者は15名 (パキスタン、インド、スリランカ、バングラディシュ、ミャンマー、フィリピン、韓国、日本およびオンライン参加者3名) だったとのこと。主題聖句「あなたがたは、現にそうしているように、励まし合い、お互いの向上に心がけなさい。」(Iテサ5:11) にある通り「それぞれの国の状況における宣教の喜びや苦しみ、そして課題を分かち合い、植民地時代を乗り越えたアジアの一員として連帯意識を持つこと、そして励まし合うことが大きなテーマであった」との報告を古本主事から受けています。

かつて日本はアジアに対して植民地化する側であったことは踏まえつつ、この報告にある「連帯」は、先述した拙論の論題にある「連帯」とも軌を一にしており、本論の中では「脱植民地化」の日本聖公会における文脈とその課題についても論じています。同時並行的に進んでいる

CTEACやASDNといった神学校の国際的な協働と併せて、今回の成果もまた今後の神学教育の展開へと活かされていくことでしょう。

(3) 神学館の「2035年問題」

最後に、毎回この紙面の最後で取り上げている財政難の問題ですが、いよいよ「カウントダウン」をせざるを得ない段階を迎えています。つまり、このままではあと10年位で資金が枯渇するという状況です。4月26日には伝道教区を巡る臨時教区会が予定されていますが、どうあれ、単に神学校の「延命」というより、これまで以上に信徒の奉仕職や特任聖職の養成にアクセントを置いて、教区の宣教体制に確かな位置づけをもった宣教に資する神学校へと刷新されることを通じてこの課題が解決されていくことを望んでいます。今後とも本館の神学教育へのご支援とご加禱をどうぞよろしく願い申し上げます。

日本聖公会
NIPPON SEI KO KAI

神学校のために 祈る主日

2025.05.11

(復活節第4主日)

一人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として、自分の命を贖うるために来たのと同じように。
(マタイによる福音書 20章28節)

聖公会神学院
The Central Theological College
1911年設立
東京都世田谷区用賀1-12-31

ウィリアムス神学館
The Bishop Williams' Theological Seminary
1948年設立
京都市上京区椋輪町380

命どう宝 ～戦後80年、なぜ沖縄へ～

2025年沖縄週間／沖縄の旅に向けて

正義と平和委員会 沖縄プロジェクト 司祭 サムエル 小林祐二

本年も「沖縄週間」と「沖縄週間／沖縄の旅」をご案内いたします。

「沖縄週間」は沖縄慰霊の日(6月23日)を含む1週間、「沖縄週間／沖縄の旅」は毎年沖縄教区の「慰霊の日礼拝」を含む期間に開催しており、本年は以下の日程となりました。

- ・ 沖縄週間: 6月22日(日)～28日(土)
- ・ 沖縄週間／沖縄の旅:
6月20日(金)～22日(日)

『管区事務所だより』4月号(第406号)に同封のポスターと祈りをご活用くださり、沖縄の歴史と現状を憶えて代祷をおささげくださるようお願いいたします。また各教会・関連施設にて「沖縄週間／沖縄の旅」への参加を呼びかけていただくほか、独自にプログラムを開催いただくことも良いかと思えます。そのために必要なことがありましたら、何なりとご相談ください。

・沖縄週間について

本年のテーマは「命どう宝～戦後80年、なぜ沖縄へ～」としました。沖縄に伝わる「命どう宝」(＝命こそ宝)は変わらず、本年はアジア・太平洋戦争の終結から80年目となることから、沖縄プロジェクトでもこの80年の振り返りを大切に、特になぜ日本聖公会が沖縄を大切にしてきたかに焦点を当てようと考え、このテーマとしました。

今号に同封予定の「沖縄週間／沖縄の旅ご案内」でもふれたとおり、この沖縄週間は1994年の第46(定期)総会にて初めて定められ、それ以来途切れることなく継続されてきました。これに先立つ1972年、沖縄は“本土復帰”し、同年に米国聖公会沖縄伝道教区も日本聖公会へ

移管され沖縄教区となりました。当初日本聖公会では沖縄教区のための代祷や献金が呼びかけられ、次第に交わりを深める機会が設けられてきました。それは沖縄戦の悲しみ、また“本土”との間にもたらされている不公平な現状を知らしめることとなり、今日の沖縄週間につながります。この歩みには、「善いサマリア人」(ルカによる福音書10:25-37)で主イエスさまが宣べられた「隣人になる」ことの探求が貫かれていると思えます。沖縄戦により多くの命が失われた悲しみ、その後現在も広大な軍事施設によって制限され続ける経済や生活。そこに心を近づけ、あるいは身を置くことによって、わたしたちが福音を証する日常を見直し、「永遠の命を受け継ぐ」(同)のために自らを整えるきっかけともなると思えます。本年もどうぞこの週間をお憶えくださるようお願いいたします。

・「沖縄週間／沖縄の旅」について

本年も2泊3日の旅程です。例年外部の方にガイドをお願いしてきましたが、今年はスタッフがガイドを行ないます。初日は極東最大規模の米空軍基地と言われる嘉手納基地を訪れ、その現状を視察します。週末や沖縄慰霊の日(6月23日)近くには飛行訓練が控えられることもありますが、本年はその慰霊の日直前の平日に予定し、日常の基地の様子、近隣に住む人々の置かれた環境に近づくことができばと思います。

2日目は例年様々な場所を訪ねてきましたが、今年は沖縄の歴史を伝える代表的な施設である「沖縄県営・平和祈念公園」(糸満市)に行きます。多くの方々が訪れる場所ではありますが、本

年ここでスタッフは事前研修を行ない、その中で今までにない気づきを与えられてきました。皆さんをガイドしながらそれを分かち合いたいと願っています。

3日目は三原聖ペテロ聖パウロ教会の主日礼拝に全員で参列します。午後は沖縄教区主催の「慰霊の日礼拝」（本年は北谷諸魂教会ではなく三原聖ペテロ聖パウロ教会にて）に参列します。この礼拝でプログラムは終了となりますが、翌日は沖縄慰霊の日ですので、延泊して当日の沖縄を過ごされるのも良いのではないのでしょうか。

以上、ご不明の点がありましたらご遠慮無くご連絡ください。

*メール：okinawa.project.nskk@gmail.com

本年は「沖縄の旅」について事前にたくさんのお問い合わせをいただいております。沖縄週間は6月ですが、「沖縄の旅」の参加申込は案内が管区事務所より発送され次第開始となり、先着順で締切となりますので、おはやくにご案内くださいますようお願いいたします。沖縄でお目にかかれますことを楽しみに準備を進めて参ります。



辺野古瀬崇の浜にて



辺野古瀬崇灯台跡にて

写真提供：小林祐二司祭 / いずれも昨年のプログラムでの活動場面

沖縄週間の祈り

れきし いのち しゅ かみ
歴史と生命の主である神よ、わたしたちを平和の器にしてください。

なげ くる しみ のただ中 に あなたの ひかり、
嘆きと苦しみのただ中 に あなたの 愛と 赦しをお与えください。

てきい にく なか あい ゆる あた
敵意と憎しみのただ中 に あなたの 愛と 赦しをお与えください。

わたし で あ とお かな なか なぐさ いた なか
私たちの出会いを通して 悲しみの中 に 慰めを、 痛みの中 に いやしを、

うたが なか しんこう しゅ ゆた そそ こ
疑いの中 に あなたの 信仰を、 主よ、 豊かに 注ぎ込んでください。

おきなわしゅうかん とお あら
この沖縄週間を通して わたしたちを 新たに し、

あなた しめ かいほう へいわ みち あゆ もの
あなたの 示される 解放と 平和への 道を 歩む者として ください。

わたし しの
わたしたちの主 イエス・キリストの いくしきにより、

このお祈りをお献げいたします。 アーメン

世界の聖公会の動向

- ☆3月に発生した地震後のミャンマーの圧倒的危機
- ☆アングリカンルーテル教会委員会、一致を深めるための集い
- ☆レゴで作成した教会のレプリカが大きな注目を集める

管区事務所渉外主事 司祭 ポール・トルハースト

○3月に発生した地震後のミャンマーの圧倒的危機

ミャンマー聖公会の大主教であるスティーブン・タン師は、3月下旬にミャンマー全土の6つの地域を襲った大地震の余波について、「この危機の大きさは圧倒的です」と述べている。

マンダレー近郊を震源とするマグニチュード7.7の地震はタイでも感じられ、ミャンマーを襲った地震としては過去100年以上で最も強いものだった。

“多くの命が失われ、数え切れないほどの建物が倒壊しました。この危機は、救助隊員、生活必需品、医療従事者の深刻な不足を招いています。ミャンマー聖公会のマンダレーとタウンゲーの2つの教区は、甚大な被害を受けています。”とスティーブン大主教はアピールに書いている。

死者数が4,500人を超える中、ミャンマー聖公会は災害対策委員会を組織し、救援と復旧の差し迫った需要に応えようと奮闘していると説明した。

「さらに、私たちの教会は、避難所や人道支援を求める非キリスト教徒の地震被災者の避難場所ともなっています。マンダレー教区とタウンゲー教区の両教区は、食糧、水、医薬品、一時的な避難所、蚊帳、たいまつなど、最も緊急に必要なものの配給を行なっています」と大主教は述べた。

○アングリカンルーテル教会委員会、一致を深めるための集い

世界各地から聖公会とルーテル教会の指導者たちがヨルダンのアンマンに集まり、「聖公会・ルーテル教会の一致と宣教のための国際委員会(ALICUM)」の第1回会合が開かれた。「私たちの洗礼による一致」というテーマのもと、参加者たちはキリストにある自分たちの共通のアイデンティティを振り返り、より深い関係を築き、さまざまな教理的、福音主義的、宣教的プロジェクトに取り組んだ。

ALICUMは2018年、ルーテル世界連盟理事会と聖公会の常設委員会によって、聖公会とルーテル教会間の数十年にわたる協定の土台の上に構築された新しい委員会として設立された。世界のいくつかの地域では、聖公会とルーテル教会はフル・コミュニオン関係にある。国際聖公会・ローマ・カトリック統一宣教委員会のように、ALICUMは、聖公会とルーテル教会の主教や指導者たちが、世界各地のさまざまな国から集まり、教育、福音化、宣教を分かち合うためにペアを組んでいる。

5日間の会議期間中、委員会のメンバーは共に礼拝を捧げ、洗礼教会論と既存の聖体拝領協定について神学的な議論を行なった。また、ヨルダン川を含む聖書の主要な場所を巡礼し、そこで洗礼の誓いを新たにした。

委員会のメンバーは、神学教育、伝道と弟子訓練、公共神学、ユースワーク、社会から疎外されたコミュニティへのケアなどにおける協力の話を分かち合った。これらのエピソードと関連する計画は、世界中の聖公会とルーテルの協力の創造性とエネルギーを示すものであった。委員会はまた、衰退と世俗化から急速な成長と迫害に至るまで、さまざまな状況の中で信仰を教え伝えるという実際的な課題にも取り組んだ。委員たちは、キリスト教徒が少数派であり、物的資源に乏しい状況下であっても、教会が増加しているという話を聞いて、驚きと感謝の念を抱いた。

アングリカン・コミュニオン事務局の統一・信仰・秩序担当ディレクター、クリストファー・ウェルズ博士は、次のとおり述べている。「ルーテル派と聖公会は、一つの信仰と一つの主について共に証しすることを約束し、教会全体が互いに完全に身を委ね合うよう呼びかけています。私たちは、すべてのキリスト教世界共同体が聖霊の力によって燃え上がり、唯一の信仰を告白し、待ち望む世界に福音をより確実に伝えることができるよう祈ります」。

○レゴで作成した教会のレプリカが大きな注目を集める

ジェームズ・スペンサー牧師は、8歳のときからレゴブロックで作品を作ってきた。その生涯にわたる趣味によって、カナダ、ニューファンドランド島にある彼のパリッシュであるセント・メアリーズ・アングリカン教会が注目を集め、地元の子どもたちへの新たな奉仕活動の核となっている

この1年間、スペンサー師は教会の建物の模型をレゴブロックの「スタッド」（レゴブロックの基本単位で、ブロックを連結するための突起の1つで区切られる）1つにつき1フィート（約30センチ）の縮尺で作ってきた。

「必要なブロックを全部集め、教会で寸法を測り、すべてを計算して作り始めました。必要な

ピースを全部揃えるのに1年かかり、かなりの数のレゴを注文しましたが、ほぼ期待通りの仕上がりになったと思います」と彼は述べる。

作品の大きさは幅約30センチ、奥行き約60センチで、教会のバリアフリースロープからステンドグラスの窓まで、あらゆるものを再現しているという。さらに教会の座席にはミニフィギュアの信徒たちが座っている。彼がこの模型を作り始めたのは、聖職に就いた最初の年に温かく迎えてくれた教区に感謝の気持ちを伝えるためだったが、その反響は予想以上に大きかった。

スペンサー師はまた、教会で新たに開始したレゴを使ったアウトリーチ活動を通して、教会が人々の生活の中に存在感を持つよう努めている。主催者たちは、信徒や地域住民から寄付されたレゴブロックを集め、プログラム開始に必要な量を集めてきた。このプログラムでは、地元の子どもたちが教会に集まり、楽しみながらレゴを組み立て、時にはチャレンジ・プロジェクトに挑むこともある。スペンサー師によると、このプログラムにはあからさまに宗教的な要素はないけれども、アウトリーチ活動として価値のあるものになるためには、必ずしも宗教的である必要はないという。

「教会は必ずしも聖書を若者に押し付けるのではなく、若者とつながる必要があると私は強く信じています」と彼は言う。

教会が若者の人生に前向きな存在となることから始めれば、長期的にはより良い関係という形でそれが報われるだろうと彼は信じている。

「聖公会は長い間、教会堂の中に閉じこもり、人々が基本的な期待や伝統から教会に足を運んでいた時代を夢見てきました。しかし、そんな時代は終わりました。私たちは地域社会に出て行く必要があります。私はむしろ、人々が私の教会を他の場所で、そして時には私たちの建物でも見てくれることを望んでいます」

石川一雄さん追悼、その逝去に思うこと

— 狭山事件第4次再審の実現を —

管区人権問題担当者 司祭 クリストファー 奥村貴充

3月11日に石川一雄さんが逝去されたことは『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議（以下、「同宗連」）から送られてきたメール連絡で知りました。そのメールを読んだ時は本当に言葉に言えないほどの驚きでした。それとともに、愕然とするばかりでした。と同時に生きておられる間に見えない手錠が外れなかった石川一雄さんの人生を思うと心苦しいばかりでした。

ところで、初めて私が狭山を訪れたのは2009年9月上旬の頃でした。その時は聖公会神学院の神学生だったのですが、学生会で狭山の自主研修をしようということで足を運んだのが狭山事件に関わる最初のきっかけでした。まだ残暑が厳しかったところ、新狭山駅からみんなで歩いて現地調査学習をしたことを今でも鮮明に覚えています。世の中にはこんなひどい冤罪事件もあるものか、と当時の自分なりに感じたものでした。

2011年3月聖公会神学院を卒業しましたが、狭山事件と直接取り組むことはありませんでしたが、もう一度関わるようになったのは2012年度より管区の人権問題担当を拝命したことです。その頃から「部落問題に取り組むキリスト教連帯会議」（以下、部キ連）に役員として、また「同宗連」広報委員会の働きにも携わるようになりました。このように、キリスト教の教派を超えて、さらに宗教の宗派を超えて、連帯しながら石川一雄さんの無罪を勝ち取っていくための闘いにも参加し、何回か狭山へ足を運び、現地調査に参加するとともに、石川一雄さんからお話を聞く機会も何回か与えられました。

石川一雄さんと初めてお会いしたのは、2013年に管区が開催した新任教員研修でした。これまでの人生の道のりを直接お伺いすると、今まで

は頭で分かっていたつもりでの狭山事件が、リアルに分かるような感じでした。やはり、顔と顔の見える関係によって「石川さんは無罪だ」という理解がより一層深化させられていく思いでした。また、3人の刑事に取り囲まれ、嘘の自白をさせられた録音テープがあって、それをもとに再現した動画もあり、それを視聴すると石川一雄さんの自白は警察がでっち上げた嘘のストーリーであることが確信できるようになりました。このようにして、管区の人権問題担当、「同宗連」また部キ連の活動をして参りましたが、今回のご逝去は本当に無念でなりません。

石川一雄さんに最後にお会いしたのは、2024年10月に「同宗連」主催によって開催された「第38回『狭山』現地調査学習会」でした。いつものように「再審に燃え 昭和 平成 令和の中 岩窟の我 老いを生き抜く」と短歌を詠まれ、絶対に再審を実現させて無罪を勝ち取るのだという意気込みが伝わってきました。しかし同時に86歳にもなり体力が弱ってきていることをご自身が述べておられました。早期に再審へと結びつけないと時間がないという印象を受けたものでした。その数ヶ月後の2025年3月11日に逝去されるとは当時の自分には思いもよらないだけに、「同宗連」からのメールを読んだ時は本当に大衝撃でした。

特に最近は有力な鑑定結果が提出され、袴田事件の例があったように、狭山事件も再審開始が目前とっていました。そこに期待を込めていました。しかし、今回のように天国にまで見えない手錠が掛けられているのは残念です。また、「裁判所は人権保障の最後の砦」だとは憲法等の教科書でよく見かけることですが、それが本当に砦として機能しているのだろうかという疑念も

感じます。残念ながら、石川一雄さんの人生に焦点を当てて考えてみると、人権保障のために機能していないのが日本の裁判所の実態と言わざるを得ません。もしかしたら石川さんの死を待っているのではないかと数年前から思っていました。もしそうだとすれば、何のために憲法をはじめとした一連の法令があるのだろうかという疑問に思わざるを得ません。

最後になりますが、石川一雄さんの逝去は残念なことですが、これからの働きが大切になってきます。石川早智子さんと共に狭山第4次再審の実現に向けて、キリスト者をはじめ、他宗教、またあらゆる立場の違いを超えて連帯する時です。石川一雄さんの無罪を一日も早く勝ち取るために、みんなで働きを続けていきたい次第です。

京都教区 能登半島地震対策室 ボランティア募集要項

京都教区 能登半島地震対策室では、下記の要項で、第12～17期ボランティアを募集し、被災地でのご奉仕をお願いいたします。

1. 活動期間：

⑫活動期間 5月26日(月)～29(木)

活動日：5/27(火)～28(水)

⑬活動期間 6月23日(月)～26(木)

活動日：6/24(火)～25(水)

⑭活動期間 7月14日(月)～17(木)

活動日：7/15(火)～16(水)

⑮活動期間 9月22日(月)～25(木)

活動日：9/23(火)～14(水)

⑯活動期間 10月27日(月)～30(木)

活動日：10/28(火)～29(水)

⑰活動期間 11月17日(月)～20(木)

活動日：11/18(火)～19(水)

各回全期間参加の方を優先いたしますが、現地集合が出来る方は部分参加も可能

活動期間のタイムスケジュール

月曜日午後 JR 金沢駅前集合 夕方 VC(珠洲市)着
火曜日、水曜日 日中作業

木曜日朝 VC(珠洲市)発 JR 金沢駅解散

2. 活動場所：珠洲市

3. 宿泊場所：上黒丸ボランティアセンター (VC)

珠洲市若山町上黒丸 / 責任者 司祭 出口崇

4. ボランティアの活動内容：作業ボランティア

- 被災者宅の荷物整理、清掃活動など生活再建へのお手伝い。

5. 募集条件：

- 生活を整えつつ、力を合わせて活動できる方。
- 宿泊代無料。食事、風呂代はVCで負担します。
- 寝袋持参。洗濯等は各自負担。

6. 持参品：作業着、帽子、マスク、手袋、長靴、水筒、タオルなど。その他、活動に必要と思われるものを持参してください。

7. 申し込み：別紙の「ボランティア登録票」にご記入の上、所属教会の牧師を通して、京都教区事務所へFAXまたはメールを送信してください(詳細は別紙参照)。責任者から本人へ連絡して、活動期間および内容を決定します。

*お電話での申し込みや、直接にセンターにお越しになられてもお受けいたしません。

8. その他の注意点：

- 活動開始日の1週間前までに申し込みください。それ以降ではお受けできません。
 - 申込みをお受けした時点で集合場所等の詳細をお伝えいたします。
 - 活動期間が決定次第、各自の居住地にある社会福祉協議会で「ボランティア保険」に加入してください。
 - 当VCの活動は基本的に社会福祉協議会を通じたボランティア活動ではなく、当教区対策室の直接の関わりからの支援です。車の高速代の補助が出る「災害派遣等従事車両証明書」の交付は基本できません。
 - 各期間、5～6人をめどに募集を締め切りいたします。
-



＋主の平和

戦後 80 年にあたり、日本聖公会 正義と平和委員会 憲法プロジェクトより、「証言集」が発行されました。『管区事務所だより』に同封いたします。追加をご希望の場合は、管区事務所にお問い合わせください。送料をご負担いただくこととなりますが、冊子は無料にてご希望の冊数をご用意・ご送付いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

日本聖公会管区事務所 総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

管区事務所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日本聖公会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yaraicho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

【主教会メッセージ】

“戦後80年”に当たって

「自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい。」

(マルコによる福音書9:50)

〈はじめに〉

日本聖公会に連なるすべての皆様の上に、主のご復活のお喜びと主の平和がありますようお祈りいたします。

今年、2025年はアジア・太平洋戦争が終結してから80年目に当たります。日本の敗戦により戦争は終結しましたが、この戦争により、2,000万人とも言われるアジア・太平洋地域の人々、日本国内の人々が犠牲になりました。80年を経ても戦争の犠牲や被害による様々な傷は癒えてはいません。殊に、日本が侵略した国々との和解と平和が未だに実現していないことを、わたしたちは反省と痛みをもって覚えます。

戦後80年に当たり、わたしたちはこの戦争で犠牲になった人々、また、今もその痛みや苦しみ、悲しみの中にある人々のために祈ると共に、世界の平和に向けての日本聖公会のあるべき姿を改めて確認したいと思います。

〈日本聖公会の戦争責任〉

この時にあたり、わたしたちが想い起したいことは、1995年に開かれた「日本聖公会宣教協議会」のことで、「日本聖公会の宣教—歴史への責任と21世紀への展望」の主題のもと行なわれたこの協議会において、日本聖公会の戦争責任を認め、その反省の上に、21世紀に向けて、日本にあって歴史的に支配や戦争の被害を受け、今も差別を受けている人々—在日韓国朝鮮人をはじめとする他のアジアの人々、沖縄の人々、アイヌの人々、被差別部落の人々、障がいを持つ人々、女性たち、など—と共に歩むことを宣教の中心課題としていくことを確認しました。

さらに、翌1996年開催の日本聖公会第49(定期)総会では「日本聖公会の戦争責任に関する宣言を決議する件」が採択され、全教会が日本聖公会の戦争責任を共有し、日本が侵略した諸国の教会に対し日本聖公会としての謝罪の意志を伝えるとともに、各教区・教会において歴史的事実の認識と福音理解を問い直し、深めるための取り組みを継続して進めることを決議しました。

そして、アジアにおける各聖公会との協働関係—殊に、大韓聖公会、フィリピン聖公会との協働関係を築くことに努め、また、沖縄における平和と人権問題への関わりを推し進めてきました。南北朝鮮の平和統一を含む東アジア全体の平和と和解、そして、沖縄における平和の確立は今後とも日本聖公会の宣教活動の大事な課題であり続けることを改めて確認し、その実現のため努力を続けていきます。

〈2023年日本聖公会宣教協議会〉

2023年11月10日から13日の日程で、山梨県清里・清泉寮に、すべての教区主教をはじめ

各教区代表、管区諸委員会など信徒・教役者132名が集い、「いのち、尊厳限りないもの～となりびととなるために～」を主題に、2023年日本聖公会宣教協議会が開催されました。今回の宣教協議会は「2012年日本聖公会宣教協議会」から十年後に＜宣教・牧会＞の実りを持ち寄りとしていた約束を受けて開かれ、2024年2月2日、「2023年日本聖公会宣教協議会からの呼びかけ」が出されました。「ここからまた歩きはじめよう～いのちに仕え、となりびととなるために～」

1. 神のみ声に耳を傾けよう
2. 人々の声に耳を傾けよう
3. 世界の声に耳を傾けよう

と呼びかけられて、教区・教会・信徒・教役者が「となりびととなるために」、ここから耳を傾ける具体的な実践を大切に歩いていくことを表明しています。

〈 これからの日本聖公会のありかた 〉

2022年2月24日ロシアがウクライナに侵攻して3年が経ち、2023年10月7日ハマスの越境攻撃に対しイスラエルがパレスチナ自治区ガザ地区を空爆して1年半、終わりの見えない戦争が続いて6万人、5万人以上が犠牲となっています。ミャンマーでは2021年2月1日、軍事クーデターが勃発し民主化途上で阻止されました。先頃発生したミャンマー大地震の被災者救援も停滞しています。日本政府はアメリカの核の傘の下、特に沖縄米軍基地の固定化、辺野古基地建設の強行、台湾有事を殊更に喧伝し、南西諸島の自衛隊基地の新基地建設を加速させ、戦争の放棄を謳った憲法第9条の改定を目論むなど日本の軍事強化へ突き進んでいます。それに伴い沖縄、韓国、中国との関係の悪化等平和や安定が脅かされています。

一方、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）は、2024年のノーベル平和賞を受賞しました。唯一の被爆国である日本は、「核兵器のない世界」を目指すべきです。核兵器で世界を滅ぼしてはいけません。日本聖公会は、「核といのちは共存できない」との理念で、原発のない世界を求めています。このような状況であるからこそ、戦後80年を迎えたわたしたちは、これまでの歴史と主イエスの福音から学び、いのちを輝かせる働き、隔ての壁を取り除き、分かたれたものを一つにする平和の器として歩いて行く思いを新たにします。

〈 平和のしるし・和解の器として 〉

主キリストは十字架の死の前に「父よ、あなたが私の内におられ、私があなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。」（ヨハネ17：21）と祈られました。そして復活された後、弟子たちに現れ、「父が私をお遣わしになったように、私もあなたがたを遣わす。」と命じて彼らに聖霊を授け、和解の務めへと送り出されました（ヨハネ20：21以下）。

わたしたちは日本社会の中であって小さな群れです。しかし主キリストにあって一つであること、そして、いのちを尊び、祝福しあう共同体として、共に礼拝し、仕え、歩むことで、それぞれの地域での“平和のしるし”となることができます。

戦後80周年に当たり、わたしたちは主に在って一つであることが“平和のしるし”となることを覚えます。そして「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」や「2023年日本聖公会宣教協議会からの呼びかけ」に掲げられている取り組みを丁寧に実践し、主キリストの十字架の死と復活によって示された和解と平和を告げ知らせて行きます。

2025年復活日
日本聖公会主教会



戦後80年を覚えて

真理と平和の源である全能の神よ、
 アジア・太平洋戦争の終結から80年を迎えたこのとき、
 わたしたちは、戦争により犠牲となったすべての方々を覚え、
 あなたの深い憐れみの御手にゆだねます。
 また、今なお痛みや苦しみのうちにある人々の上に、
 主の癒しと慰め、そして平安が豊かに注がれますよう祈ります。
 わたしたちが過去の歴史から目をそむけることなく、
 地上の平和を齎かし、
 あなたのかたちに造られた一人ひとりのいのちと尊厳を奪い去る、
 あらゆる戦争と暴力に対して、
 目を開き、声を上げ、
 あなたの平和の器となることができるよう、
 わたしたちに必要な知恵と勇気をお与えください。
 主は父と聖霊とともに一体の神であって、世々に生きすべてを治めておられます。

アーメン

(2025年 復活日 日本主教会作成)



十主の平和

戦後80年にあたり、日本聖公会主教会からメッセージと祈りが、復活日付で発出されました。

各教会の信徒・教役者のみなさまが「戦後80年」に当たってのメッセージを共有し、(メッセージはハングル版と英語版があり、全世界の聖公会 - Anglican Communion - に共有されています。)戦後80年を覚えての祈りを適宜におささげくださいますように。

また、3月28日に発生したミャンマーでの大地震によって犠牲となった方々、困難のうちにある方々を覚えて、日本聖公会主教会よりメッセージが発出されておりますことも併せ次頁に記します。どうぞよろしく願いいたします。

日本聖公会管区事務所 総主事
 司祭 エッサイ 矢萩新一

ミャンマーとタイの主教さまへ

主の平和をお祈りします。

ミャンマーとタイの主教さま、今は、大変辛い時期を過ごされていると思います。

ミャンマーとタイでの地震、日本でも、毎日テレビやネットを通して、状況が報告されております。

地震から時間が経つにつれ、被害が拡大していく状況に、胸の痛みを覚えています。

今、地震によって、家や家族を失い、深い悲しみ、苦しみ、途方に暮れておられる人々の上に、主の慰めをお祈りします。

また被害にあった人々のために立ち上がり、自らも不安や恐れ、困難の中にありながら、救助の活動をしておられる人々の上に、主から勇気や希望、力が与えられますようにお祈りします。

そして、地震によって犠牲となった人々の魂の上に、主の平安をお祈りします。

日本は、ミャンマーとタイとも親しい関係を保ってきました。

日本聖公会は、皆さまのためにお祈りをし、心を寄せます。

主にあつて。

日本聖公会 主教会

首座主教 ダビデ 上原榮正

Bishops of The Church of the Province of Myanmar

Bishops of the Anglican Church in Thailand, Province of South East Asia

Dear Bishops of Myanmar and Thailand

Greetings in the name of our Lord Jesus Christ.

We are certain this finds you all at a most difficult time, as news of the recent earthquake in Myanmar and Thailand continues to be reported daily in Japan through television and the internet.

As time passes since the earthquake, it pains me to see the damage and destruction spreading further.

We pray for the Lord's comfort to be with those who have lost homes and families, and who suffer deep sorrow and loss at this time.

We also pray that the Lord will grant courage, hope, and strength to all supporting and advocating for those affected by this tragedy, as well as those engaged in rescue efforts, no doubt in the midst of anxiety, fear, and difficulties themselves. And we pray for the Lord's peace to be with the souls of all who have lost their lives in this earthquake.

Japan stands together with Myanmar and Thailand in this time of devastation.

The Anglican Church in Japan prays for you all and wants you to know our thoughts are with you.

In the Lord.

The Most Reverend David Uehara, Primate, Nippon Sei Ko Kai

House of Bishops, Nippon Sei Ko Kai

日本聖公会

100%
自然エネルギー

14 海の豊かさ
15 陸の豊かさ

地球環境 のために祈る日

2025.06.08

(06.05 世界環境デーに最も近い主日)
WORLD ENVIRONMENT DAY

戦後80年 ～神と人々と世界の声に耳を傾け、平和をつくりだそう!～

正義と平和委員会 原発問題プロジェクト主催

原発のない世界を求める週間

2025年6月8日(日)～6月14日(土)

原発のない世界を求める週間2025 企画

原発のない世界を求める講演会

「核なき世界へ 被爆者の思い」

◆ 日時：6月14日(土) 14:00～16:00
◆ 場所：東京教区 聖アンデレ教会 (※YouTube配信あり)
◆ 講師：家島 昌志さん 東京都原爆被害者団体協議会(東友会) 代表理事

敗戦後80年にあたり、核兵器廃絶や脱原発を含めて「核といのちは共存できない」という立場にたち、被団協のノーベル平和賞受賞を受けた意義や歩みなどについて被爆体験も交えてお話いただきます。

※ 詳細は別途チラシ、
原発問題プロジェクトや管区事務所の
ホームページをご覧ください。

原発問題プロジェクト ホームページ
<https://www.nskk.org/province/no-nuke-project/>



□ 「代祷表 2025 年」について

ACP (Anglican Cycle of Prayer) 発行の代祷表 (翻訳版) は、『管区事務所だより』の同封物として奇数月にご送付させていただいております。このたび「代祷表 2025 年 6 月」の内容を一部更新いたしました。更新されました代祷表資料データは、管区事務所の HP にアップロードいたしましたので、同 HP よりダウンロードなさりご活用ください。どうぞよろしくお願いいたします。

管区事務所

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆ 「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。

comm-sec.po@nskkn.org 広報主事(鈴木 一) 宛て